

心不全の医療の質指標に関する研究

研究分担者 中尾 一泰 国立循環器病研究センター

研究要旨

心不全患者の慢性期治療において推奨されている、ガイドライン推奨薬剤の処方率や心臓リハビリへの参加率、また、心エコーの実施率について、我が国の実態をあきらかにするため、循環器病実態調査を用いて 808 病院で検討をおこなった。薬剤処方率や心臓リハビリの実施率に施設間のばらつきがあることを明らかにした。

A. 研究目的

心不全患者の慢性期治療において推奨されている、ガイドライン推奨薬剤の処方率や心臓リハビリへの参加率、また、心エコーの実施率について、我が国の実態を明らかにする。

B. 研究方法

国立循環器病研究センターが日本循環器学会と共同研究を行っている循環器病実態調査(JROAD-DPC)を用いて、検討を行った。2012年4月から2014年3月のデータを用いて、我が国の808病院に急性心不全で入院した157364名において慢性期の心不全治療薬(ACE-I/ARB、遮断薬、スピロノラクトン)の処方率、入院中の心臓リハビリ参加率、心エコーの実施率について、検討を行った。

当研究は、国立循環器病研究センターの倫理委員会にて承認を得たうえで実施している。

C. 結果

ガイドライン推奨薬剤の処方率はACE/ARB 中央値71% [四分位範囲:60%-80%] 遮断薬 68 [53-77]であった。一方、スピロノラクトンの処方率は 46 [32-57]とACE-I、ベータ遮断薬と比較して低率であった。心エコー検査の実施率は 87 [78-93]と高率に実施されているが、心臓リハビリテーションの実施率は低く(2 [0-60])、大きなばらつきがあることが明らかになった。

D. 考察

我が国の心不全診療において、心エコーの実施率は高いことが明らかになった。また、心不全のガイドライン推奨薬剤のうち、ACE/ARB、遮断薬の病院毎の処方率と比較し、アルダクトンは低率で施設間のばらつきが大きいと考えられる。心

臓リハビリテーションの導入率は低く、施設間でのばらつきが大きいことが明らかになった。

E. 結論

心不全の慢性期管理および治療において推奨されている項目のうち、一部の項目については施設間でばらつきが大きいことが明らかになった。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1. Association between prescription rates of guideline-directed medications and short-term outcome among 61838 Japanese patients with acute myocardial infarction.

- From JROAD-DPC study -

2017年 ヨーロッパ心臓病学会 バルセロナ

2. 医療情報データベースを活用したリアルワールドエビデンス構築

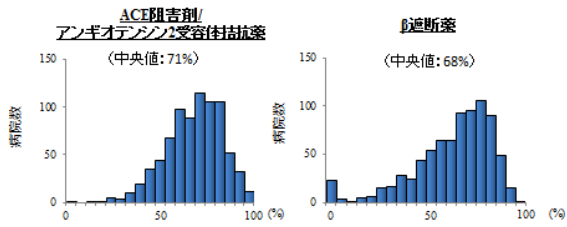
第65回 心臓病学会学術集会 2017 シンポジウム

H. 知的財産 なし



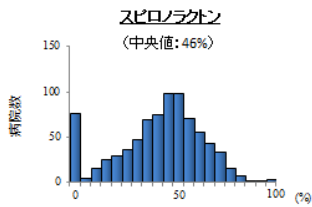
心不全診療におけるQIの検討

急性心不全入院患者に対する、  
病院毎（808施設）のガイドライン推奨薬剤の退院時処方率の分布  
（2012-2013）



心不全診療におけるQIの検討

急性心不全入院患者に対する、  
病院毎（808施設）のガイドライン推奨薬剤の退院時処方率の分布  
（2012-2013）



心不全診療におけるQIの検討

急性心不全入院患者に対する、  
病院毎（808施設）の心エコー実施率および心臓リハビリテーションへの  
入院中参加率の分布(2012-2013)

